

2019年8月16日



この秋、横浜美術館では、開館30周年と横浜開港160周年を記念し、コレクションをめぐる、二つの展覧会を開催します。

■ 横浜美術館コレクション展 「東西交流 160 年の諸相」

2019年9月21日(土)ー2020年1月13日(月・祝)

| 会場:コレクション展展示室

■ 「絵でたどるペリー来航」

2019年9月21日(土)ー11月10日(日)

| 会場:アートギャラリー1



「横浜美術館コレクション展 『東西交流 160 年の諸相』より

歌川(五雲亭)貞秀 《横浜鈍宅之図》

1861(文久元)年 多色木版 大判錦絵三枚続

横浜美術館蔵(齋藤龍氏寄贈)



「絵でたどるペリー来航」より

伝 ペーター・B.W. ハイネ 《ペルリ提督横浜上陸の図》

1854(嘉永7/安政元)年以降 油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm

横浜美術館蔵(原範行氏・原會津子氏寄贈)

本年開館30周年を迎える横浜美術館では、9月21日(土)より、横浜開港160周年をテーマに据えた二つの展覧会を同時開催します。

1859年の開港以降、横浜港は貿易のみならず、東西交流の窓口としてさまざまな文化を受け入れ、発信してきました。こうした風土のもと、横浜美術館は1989年の開館から現在まで、国際的な港町、横浜にふさわしい美術館として、開港以降の新しい美術品の収集と紹介に力を注いできました。

横浜開港160周年をテーマとする二つの展示のうち、一つは、横浜美術館の収蔵品をご紹介する「横浜美術館コレクション展 東西交流 160 年の諸相」です。幕末・明治期から第二次世界大戦後にいたる長い時間の中で生まれたさまざまな「東西交流」を、いくつかのピックを通して再考します。もう一方の「絵でたどるペリー来航」は、《ペルリ提督横浜上陸の図》に焦点を当てた、エドゥケーター(教育普及担当)の企画による展覧会です。

1859年に始まった「東」と「西」の文化の交わりは、さまざまな果実を生み出してきました。横浜美術館のコレクションを核とした二つの展覧会が、現在につづく豊饒な、生き生きとした歴史の出発点として、「開港」を見つめなおす機会となることを願っています。

展覧会のみどころ・トピックス

○「横浜開港 160 周年記念」をテーマに二つの展覧会を開催

開館 30 周年を迎える横浜美術館では、「横浜開港 160 周年記念」をテーマに、「横浜美術館コレクション展 東西交流 160 年の諸相」と、「絵でたどるペリー来航」展を開催します。

学芸員とエドューケーター、それぞれの視点を活かした「コレクション」に基づく展覧会をお楽しみください。

○新収蔵作品を複数含め、「東西交流」を再考

横浜美術館コレクション展「東西交流 160 年の諸相」では、当館の作品収集の大きな柱でもある「東西交流」を再考します。開港期から第二次世界大戦後にいたる長い時間の中で、どのような異文化の響き合いが実現したのか、昨年度に収蔵したばかりのコレクションを含めつつご紹介します。

○異なるメディアの作品を通し、ペリーの日本遠征をたどる

「絵でたどるペリー来航」展では、石版画、水彩画、油彩画など、さまざまなメディアで同じイメージを描いた作品群と『ペリー艦隊日本遠征記』の記述などの比較を通し、ペリー日本遠征のイメージを多様な視点でみていきます。

○横浜美術館開館 30 周年を記念し、11 月 3 日(日・祝)の開館記念日はコレクション展観覧料無料！

「絵でたどるペリー来航」展はいつでも無料！



「横浜美術館コレクション展『東西交流 160 年の諸相』より
熊沢喜太郎[画作兼印刷]《田子の浦真景》1892(明治 25)年
リトグラフ、手彩色 26.3×37.3cm
横浜美術館蔵 (小島豊氏寄贈[小島烏水旧蔵])



「横浜美術館コレクション展『東西交流 160 年の諸相』より
玉村康三郎[推定]《富士山、東海道より》1880 年代
アルビュメン・シルバー・プリント、手彩色 19.3×24.9cm
横浜美術館蔵 (梶川眞理氏寄贈)



「絵でたどるペリー来航」より
《脚船本船工寄ルノ図》制作年不詳
紙本着色 27.2×38.7cm
横浜中央図書館蔵



「絵でたどるペリー来航」より
ペーター・B.W. ハイネ
《ペリー日本遠征の石版画(下田上陸)》(部分) 1855 年
リトグラフ 64.4×89.3cm 凸版印刷株式会社 印刷博物館蔵

横浜美術館開館 30 周年記念／横浜開港 160 周年記念

横浜美術館コレクション展 「東西交流 160 年の諸相」

2019 年 9 月 21 日(土)－2020 年 1 月 13 日(月・祝)

会場 横浜美術館コレクション展示室

今期のコレクション展では、作品収集の大きな柱でもある「東西交流」を再考します。

開港をテーマにした展覧会の多くは、幕末・明治期の洋風表現の受容と展開、あるいはこの時期に来日した画家、版画家、写真家の活動に主眼を置いてきましたが、今回は時代を限定せず、開港期から第二次世界大戦後にいたる長い時間の中で、どのような異文化の響き合いが実現したのかを、いくつかのトピックで紹介します。

同時開催中の企画展「オランジュリー美術館コレクション ルノワールとパリに恋した 12 人の画家たち」の出品作の制作期とほぼ同時代にあたる、第一次世界大戦後のパリで、自身の表現を切り拓いていった藤田嗣治と長谷川潔。同じ頃、バウハウスを中心とするドイツの新しいデザイン理論を吸収し、その成果を活かして宣伝誌『NIPPON』を発刊した名取洋之助。多民族の共生と摩擦を抱えるアメリカ社会で、日系人や日本人の美術家たちが残した足跡。移動手段も情報メディアも一気に高速化した第二次世界大戦後には、フランスの「アンフォルメル」と日本の「具体」のように、一方的な影響関係ではなく、問題意識を共有しながら波及していく動向も現れます。

他にも、「木版画」をキーワードに、浮世絵の伝統に連なる絵師として日本に生きたポール・ジャクレや、最新の日本版画を戦略的に海外に打ち出した吉田博の仕事をご覧くださいコーナーも設けました。これら種々のトピックの間に、新収蔵品を多数含めた「横浜浮世絵」や「明治写真」など、開港期の特集展示を織り込みます。

展示構成

序章 《パシフィック—シャタード・ブルー》

第 1 章 藤田嗣治と長谷川潔のパリ

第 2 章 ドイツのモダニズムと日本

第 3 章 多民族アメリカの「日系」たち

第 4 章 岡田謙三のユーゲニズム

第 5 章 アンフォルメルと具体

第 6 章 ネオダダ

第 7 章 横浜浮世絵と輸出工芸

第 8 章 下村観山の滞欧経験

第 9 章 木版画の日本

第 10 章 明治写真とニッポンの風景



長谷川 潔《夢》1925(大正 14)年
ドライポイント 22.0×27.9cm
横浜美術館蔵



野田英夫《二人の子供》1934(昭和 9)年
油彩、カンヴァス 75.0×90.2cm
横浜美術館蔵



ジャン・フォートリエ《無題》1956 年
グワッシュ、石膏、カンヴァスに貼った紙 50.0×65.0cm
横浜美術館蔵

関連イベント

○スペシャル・レクチャー 「模倣というオリジナリティ: 篠原^{うしお}有司男のイミテーション・アート」
戦後のアメリカ美術の世界覇権という視点でロバート・ラウシェンバーグの仕事を検証した『越境と覇権』(三元社、2015年)の著者が、《ラブリー・ラブリー・アメリカ(ドリンク・モア)》を中心に、篠原の制作の魅力を紹介します。

日時 2019年9月23日(月・祝) 14:00～15:30(13:30開場)
講師 池上裕子(神戸大学国際文化学研究所 准教授)
会場 横浜美術館円形フォーラム
参加費 無料(先着80名、当日10:00より整理券配布)

○市民のアトリエ ワークショップ 「篠原有司男の〈複製^{イミテーション}絵画〉をつくる」

制作当時の『美術手帖』における篠原本人の呼びかけを参考に、
《ラブリー・ラブリー・アメリカ(ドリンク・モア)》の複製を試み、
「イミテーション」の意味を考えます。

日時 2019年11月24日(日) 10:30～16:30(休憩含む)
講師 横浜美術館エデュケーター、学芸員
会場 市民のアトリエ、コレクション展展示室
対象・定員 12歳以上・14名(要事前申込、抽選)
参加費 5,000円(材料費込)
申込方法 ウェブサイトまたは往復はがき
申込期間 2019年9月1日(日)～11月2日(土)*必着締切

○学芸員・エデュケーターによるギャラリートーク

日時 2019年9月27日、10月11日・25日、11月8日・22日、12月13日・27日、1月10日
いずれも金曜日 14:00～14:30
2019年9月28日(土) 19:30～20:00
2019年10月12日・26日、11月16日、12月7日 いずれも土曜日 18:30～19:00
会場 コレクション展展示室
参加費 無料(申込不要、当日有効の観覧券が必要)

○アニバーサリー・ギャラリートーク

横浜美術館の開館30周年を記念して、開館記念日の翌日に学芸員がリレー形式で、
ちょっとゆったり展示をご案内します。

日時 2019年11月4日(月・振休) 15:00～15:45
会場 コレクション展展示室
参加費 無料(申込不要、当日有効の観覧券が必要)



篠原有司男
《ラブリー・ラブリー・アメリカ
(ドリンク・モア)》
1964(昭和39)年
蛍光塗料、ラッカー、石膏、金属、
ピン(コココーラ)、カンヴァス
64.5×46.7cm
横浜美術館蔵

基本情報

横浜美術館開館 30 周年記念／横浜開港 160 周年記念

横浜美術館コレクション展 「東西交流 160 年の諸相」

2019 年 9 月 21 日(土)－ 2020 年 1 月 13 日(月・祝)

会場 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1)

TEL:045-221-0300 FAX:045-221-0317

<https://yokohama.art.museum/>

開館時間 10:00～18:00

*金曜・土曜は 20:00 まで(ただし、9/27～28、1/10～12 は 21:00 まで)

*入館は閉館の 30 分前まで

休館日 木曜日(2019 年 12 月 26 日[木]は開館)、2019 年 12 月 28 日(土)～ 2020 年 1 月 2 日(木)

主催 横浜美術館 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

観覧料 一般 500(400)円

大学・高校生 300(240)円

中学生 100(80)円

*小学生以下無料

*() 内は有料 20 名以上の団体料金(要事前予約)

*11 月 3 日(日・祝)は無料

*毎週土曜日は高校生以下無料(要生徒手帳・学生証)

*障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1 名)は無料

*企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

*毎月第 3 月曜日は横浜市在住の 65 歳以上の方無料(「濱ともカード」をご提示ください)

横浜美術館開館 30 周年記念／横浜開港 160 周年記念

「絵でたどるペリー来航」

2019 年 9 月 21 日(土)－11 月 10 日(日)

会場 横浜美術館アートギャラリー1

小さな横浜村にペリー艦隊の一行が上陸した場面《ペルリ提督横浜上陸の図》は、横浜開港につながる歴史的瞬間を描いた作品として、これまで横浜美術館のコレクション展においてもしばしば展示されてきました。国際都市・横浜のはじまりの物語として、開港 160 周年を機に取り上げるにふさわしい作品です。

本展では、石版画、水彩画、油彩画という異なるメディアで同じイメージを描いた作品群と遠征記の記述などを比較し、写真と絵画といった視覚メディアが、どのように関連しあいながらペリーの日本遠征にかかる一連の記録画と記述を生み出していったかを検証します。

エドゥケーター(教育普及担当)の企画した本展では、当時の横浜に想像を巡らせていただくような工夫として、さまざまな教育プログラムの実施や、展示室でのボランティアによるトークなども開催します。

1854 年 3 月 8 日の出来事が、演劇の場面のように細密に描かれた《ペルリ提督横浜上陸の図》は、ハイネが描いたとされています。ハイネはペリーが率いるアメリカの東インド艦隊の随行画家であり、描かれた図像はペリーの『日本遠征記』の挿絵として多数用いられています。ハイネとともにエリファレット・ブラウン・ジュニアも画家・写真家として随行していましたが、当時の写真はダゲレオタイプ等であったため、露光時間が長く、上陸の瞬間を撮影することは不可能であったと考えられます。

ペリーが来航した当時、絵画は記録メディアの中心にあり、石版画は複製技術や出版文化と結びついて展開していた新しいメディアでした。

一方で、1854 年 3 月 8 日を日本人はどのように目撃したのでしょうか？さまざまな日本人によって描かれたペリー提督や乗組員たち、ペリー艦隊の船の絵を対比的に展示します。ここから当時の日本人の探究心や生き生きとした好奇心などを見て取ることができるでしょう。



伝 ペーター・B.W. ハイネ 《ペルリ提督横浜上陸の図》
1854 年以降
油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm
横浜美術館蔵(原範行氏・原會津子氏寄贈)



エリファレット・ブラウン・ジュニア
《遠藤又左衛門と従者》
*重要文化財
1854 年
ダゲレオタイプ(展示はレプリカ)
11.4×8.2cm
横浜美術館蔵

展示構成

1. 1854 年 3 月 8 日／嘉永 7 年 2 月 10 日—横浜上陸の図をめぐる—
2. 琉球、旗山崎、久里浜、下田でのペリー艦隊

《無款 黒船絵巻》(部分)
19 世紀後半(江戸時代末期) 紙本着色、一巻 26.3×695.3cm
神奈川県立歴史博物館蔵 *会期中巻替えあり



本展の特徴

本展を企画した、エドゥケーターが担当する「横浜美術館教育プロジェクト」は、鑑賞をはじめとする美術館体験が、より豊かで多様となる機会の提供を目指し、2012年から始動しました。「教育プロジェクトチーム」が所管するボランティアは、当館コレクションの学習活動を基礎に、学校団体や一般来館者への鑑賞事業のサポートを行っています。

本展は、2017年度に「教育プロジェクト」が、横浜市立中学校の美術科と社会科の教員たちと協働して行った「授業案づくりと授業実施」を起点にしたものです。その折に制作した「《ペルリ提督横浜上陸の図》をめぐる授業案や鑑賞教材」を、中学校の授業で活用していただけるよう、学校教員への観覧も呼びかけています。

この展覧会は、《ペルリ提督横浜上陸の図》を中心に展開する構成が特徴です。加えて展示室内でボランティアによるトーク「展覧会・ココがみどころ！」を、会期中全44回実施します。本作品のみに着目した内容で、ボランティアそれぞれの視点を活かしたトークを実施します。

【2017年に作成した授業案】*横浜美術館ウェブサイトに掲載

(A) ○○中新聞特派員現地緊急取材報告 ～私は見た、ペリー提督が黒船から上陸した瞬間を!!～(美術科)

(B) 黒船来航の現場で取材した記者として新聞記事を書こう～徳川幕府は黒船にどう対応したのか!?!～(社会科)

関連イベント

○スペシャル・レクチャー「ヴィジュアルイメージが伝えるペリーの日本遠征」

ペリーの日本遠征に随行した西洋の画家や写真家について、またペリー艦隊を目の当たりにした日本側の視点について、出品作品を中心にお話します。

日時 2019年11月2日(土)14:00～16:00(開場 13:45)

講師 嶋村元宏(神奈川県立歴史博物館 主任学芸員)

岡塚章子(東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室長)

端山聡子(横浜美術館 主任エドゥケーター/主任学芸員)

会場 横浜美術館円形フォーラム

定員 80名(申込不要、先着順)

参加費 無料(申込不要)

○学芸員・エドゥケーターによるギャラリートーク

日時 2019年10月16日(水)、10月30日(水) いずれも14:00～14:30

会場 横浜美術館アートギャラリー1

参加費 無料(申込不要)

○ボランティアによる事前ガイダンス「展覧会・ココがみどころ！」

日時 2019年10月8日(火)以降の毎週火曜日・日曜日および11月4日(月・振休)

いずれも11:00～/11:30～/13:30～/14:00～(各回10分程度)

会場 横浜美術館アートギャラリー1

参加費 無料(申込不要)

○デモンストレーション「石版画ってどんな技法？」

講師 関淳一(横浜美術館主席エディューケーター)
日時 2019年10月19日(土)、11月9日(土)
いずれも17:30~18:30
会場 横浜美術館アートギャラリー1
参加費 無料(申込不要)



《寅三月十三日神奈川ヨリ異船ノ退帆ヲ観ル図》(部分)
19世紀後半(江戸時代後期)
紙本着色 25.7×92.0cm
横浜市中心図書館蔵

基本情報

横浜美術館開館30周年記念／横浜開港160周年記念

「絵でたどるペリー来航」

会場 横浜美術館 アートギャラリー1 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)
TEL:045-221-0300 FAX:045-221-0317
<https://yokohama.art.museum/>
会期 2019年9月21日(土)~11月10日(日)
開館時間 10:00~18:00
*金曜・土曜は20:00まで(ただし、9/27~28は21:00まで)
休館日 木曜日
主催 横浜美術館 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]
観覧料 無料

プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当 (藤井、山本、梅澤、桑原)
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
Tel: 045-221-0319 Fax: 045-221-0317 Email: pr-yoma@yaf.or.jp